誹諧故人五百題

上

誹諧故人五百題

部類

集ゞ皆

叙

[illegible]

師為家を兼治し給ひ、寛元二年秋の比、
時分かゝる其孫に成て、
故者の門新に仕ふ時、
殆しも今を新に
師家ふせる蹈を
殆ふるに又年あり、一は曛 地蔵菩薩
よりて一の鋼を取
文永の世に十指を
詩を集あり、
詩を集あり、
題を又百に
その心体
殊に勝れ
懷紙
と
無ひ頻に
主人に
小家
詩

[illegible]すべき後江都へ文を託して出版を行ひ
ものを見て嘆ずるの際へ学問を修して源氏物語を
解し其義を[illegible]て[illegible]しめ其に頭註あん
ものを和式隨筆の体の簡略をもとめ古人
世を歌の業とせしの情を[illegible]て頭註するあらまを
抄こかしたるものを[illegible]すべきの志なり

南海山人[illegible]足

[illegible]

凡例

○古人の筆を其事実しの[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらぬ所をもこの古例よりあらひて其年号をこの編の初とす

○山城名所図会に載る古人歌まことしからぬものも元録享保のころまで載せる其代々の歌を以て三家測海の古事を思へば減じ伝も甚だ形ばかりの事

乃ち大概をもて著す

○其所々古人歌一どころにてもなきものあれども掌類を園真仮名にて字間乃ひらがなの類鬼つゝ来山等の名所歌にもあらぬ拾遺あり

○初学の者にもとも時代の事情をかゝくこの人々の出所もあり其詳を自編形

○其林陸奥守業房義都等人名義家の系の流れ形なる服部月舟の歌より来る編形

○年号中十二ヶ所の称号つゝ混合あるも出るも

乃ち人数一て古人の分号をつゝ各所の一部とす

○義経をもあ雲子の如き系図異説の系図兼八幡宮系図

あらぬ系図に載せる人々の事に関する事あり

○歌を重て古法年号に於ては増山井を表として第

乃ち年号を称せるを補ひ歌より二首

乃ち歌をもて称せるを補ひ歌より二首

乃ち歌をもて称せるを補ひ歌より二首

○去て四年の頃なる能登といつる部を不分割のまゝ長崎奉
行の管轄とせられかゝるを見て
○まのあたりなる人の國所得あるさまを聞
より得るこの事を以て無量の恩賞を賜はり
命を繋ぎたる坪て志ゝ人と世を弦年波瀾の
○年来中異国不詳と雖ども人志しの数多き
為に故来ゝ人ゝ多く出て補い世へ
○もし年中なひ中なまれ十人ゝ内半ゝ人ゝ内
雲のごとし少ゝ内の事ゝ人ゝ内ゝ
為に再業の例出ゝ

○其年ゝ年源の業務の業務ゝ多ゝ内ゝ
事業八変形ゝ毫髪不差の意を形容ゝ
に意ゝ内ゝ思ゝ鳥焉馬の為ひあゝ
此ゝ若義ゝ内ゝ魅ゝ顧ゝ後の人聊ゝ
○門ゝ内ゝ往中莫逆の友ゝ
旬ゝ内ゝ
○ゝ家ゝ内ゝ陪ゝ
ゝ法ゝ
ゝ中ゝ
の業の

拾遺の部歌題工業の一部とする

○春歌とは春のうたにかかるを云ふ歌題

あるひは月録より十分あるを其歌ばかりを春歌

まとめ歌のうちを人倫にて分類へ

丁未歳春日

松雲堂主人

古人五百題　春之部目録

鶯	初丁	柳	二
梅の花	四	余所の春	三
山家旦			
元日	四	鶯宿	五
鶯の声	五	鶯の鳥	五
春の夢	六	春の月	六
江戸の春	七	梅の香	六
はるの雨	七	霞の春	七
春つゝ	八	蓮の葉	八
鶯宿	五	鶯の鳥	五
春の月	六	梅の香	六
梅の香	六	春の夜	七
霞の春	七	大ふく	七
春の夜	七	太はし	八
蓮の葉	八	書初	八

年玉　八　蒙山茶　八　雪の子　九　元旦　九
若菜　九

植物之部

子の日の小松引　九　七種　九　蕨　十
若葉　十　竹　十一　梅　十一　柳　十一
野老　十二　下萌　十二　若草　十三　ほたる草　十四
初梅　十四　すの葉　十四　蕨の葉　十五　ゆすり草　十五
稗生　十五　五加木　十五　すゝな　十六　蜘蛛の巣　十六
ほのぼし　十六　蓬の子　十六　木瓜　十六　蕗の薹　十六
接木　十六　うぶな　十七　蕗の葉　十七
種おろし　十七　桃　十八　海棠　十八　連翹　十八
梨の花　十八　李子　十九　辛夷　十九　木蓮　十九
牡丹　十九　菖蒲　十九　芍薬　二十　山吹　二十　躑躅　二十
藤　二十　椿　二十

鳥類之部

鶯　二十一　猫の恋　二十一　白魚　二十二　ゑびの子　二十三
雉子　二十三　春鶯　二十三　雉子　二十四　蛙　二十四
帰雁　二十五　乙鳥　二十五　鴛鴦　二十六　燕　二十六
書鶯　二十六　蝶　二十六　雲雀　二十七　蛙　二十七
親　二十七　蛙　二十七　田螺　二十八　蟹　二十八
若鮎　二十八　うぶな　二十八　若角　二十八

時候之部

さゝ保姫　二十九　世ゝらぎ　二十九　海苔　二十九
志賀長　二十九　綱引　二十九　雲　三十　おぼろ月　三十

風中 三十一
霞入 三十一
霞こめて 三十一
春の雪 三十二
春の雪 三十二
春の雪 三十三
春の夜 三十四
春の月 三十四
春の月 三十四
春の月 三十四
春の月 三十四
春の月 三十四
海苔 三十五
海雲 三十五
海雲 三十五
陽炎 三十九
陽炎 三十九
二月炎 三十六
彼岸 三十六
彼岸 三十六
涅槃 三十六
長閑 三十七
水付 三十七
鶯 三十七
鶯 三十七
鶯

時候之部

更衣 九
春の月 十
夏の月 十一
新茶 十一
青き 十二
乃涼 十三
ひいな 十四
虎の子 十五
夏祭 十六
風鈴 十七
四季取 十八
裕 九
初鰹 十
早苗 十一
蓮飯 十一
みしま 十二
鮎 十三
冷奴 十四
夏の月 十五
夏の日 十六
夏の雨 十七
ほたる 十八
蓮葉 十九

帷子 十九
秋の月 十九
秋の雨 二十
夕立 二十
涼 二十二
笠章 二十四
汗ぬぐひ 二十五
暑の雨 二十五
掛稲 二十六
稲刈の部
初の霜 二十六
寒ちから 二十七
寒の月 二十八
冬の梅 二十八
雲の峰 十九
虫干 二十
箒草 二十二
秋婦人 二十二
心太 二十四
青蔦 二十四
川狩 二十五
秋風 二十五
芋の葉 二十七
下風 二十八
桐の葉 二十八
栗の葉 二十九

柿の花　二十
苟子　二十一
蒯　二十二
女郎花　二十三
石合　二十四
撫子　二十五
蓮　二十六
花菖蒲　二十七

都而百二十句

花

古人丑百題　蕉翁句集

春之部　南窓　鹽竈　蕉翁　松合

花咲て七日鳥なく春の暮　芭蕉翁

春の山　徳

一撰と書くしの花の林哉　徳

春雨　執

花もちて浮世を風の吹哉　雲

何事を花の人の哭　刀

嘯風の枯木に残る花の中　丈草

春雲の猶寒しつゝ花の枝かすみ
初霞花を花より地を隠す
岸の雪すこしゝ寒し花も咲
花年年かゝる時をまり也
春年の春ゝも春花花を
花をゝも春ゝ春春春春
春春春春春春春春春春
春春春春春春春春春春
春春春春春春

櫻

寝入ふて物ゝ[illegible]
醉ふくもてつて時こうの花の山
隠家ゝ朝[illegible]
まてあちゝ[illegible]の多新和注[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

春二

求のこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

糸桜

山さくらちるやふかの川の水
是てこそ命はかれ桜なれ　　雪中
分入て人の背戸しる山さくら　　春園
ちるよりはのこるもあるや山桜　　森文
糸を引ちるさえ山桜　　宝玉
一ぱいに信のこれす桜　　柳居
みむ乳ぶ桜のこれ書やけ　　百川

糸さくら高ち高く嵐の影　　乙州
面白ゆれも春のこりあり山桜　　雪渡
糸桜ちくしの嵐のまるもよ　　青文
美天や花貴ちるる糸ちくら　　尺竹

初桜

咲くとは桜の中ちつ桜
乃ちる所ちるこそ初桜　　義乙州
山伏の加さ中ちる桜　　千那
ちつちるこそ重の一重の姿ふ　　和及
めでしの誉せこそ初さくら　　一笑
ちるさいもちつ桜　　思費
初さくらこそ遅ひしよ咲くこそ　　利雲

遅桜

万代の人のちりはあり桜　　真角
少ちるこそ遅ひ遅桜　　涼菊
名所のちつしよ咲おくさくら　　史郎

元日

おりゐれて遠ひとつ手にて横ひ
遠くもの手にて四角つ折り
就居や手まくら遠さくら

元日や四角の日くもり悪し　嵐
元日や炭賣十乃格悪し　長角
元日や時くて笠のかくて　嵐雪
元日や寒き世つくめたかえうむ　吉泉
元日や非代のつゆも却りの居　守武
元日や所まくらく　忠知
元日や流れて雪川のくれの手　素山
元日も整奏の後の[illegible]　[illegible]

元日

初雪

元日や かくすもと奏でるは の歌
初雪や 流れの花の春　嵐雪
元日や 新年の道　所　友鶴
元日や 大このくきの初の歌　李坪
梅の香の 節よ立よる 初日和　紅口
てのひに 新雪を 歩しまし　支考
元日や 雪を 茶筅立もつ　乙由
元日や 雪を 茶筅立もつ　利牛

初雪

初雪や 寒うの日 沈のの手の恩　蓼蛙
元日や 新年 唯四く 猿の[illegible]　可風

初霞

我宿の杉一株ゆるがせて初霞
枇杷の葉の新芽うつる霞
芝浦や車のうしろ初の霞　西鶴

春の雪

おもしろと降みるうちや世の春
春の雪すこし白うかゝる人の哀　鉾巌
初雪　雪波

初東風

初東風や四海波おさまる代
春の雨や東風や系仲恋も武の勢　宗鶴
初東風　多碑

初暦

一年もたゝぬに歩し初ゆうべ
服続きて形ゝ春の暦　宗長
乙由

初夢

春の夢や寝ぬ人ゝ君を千代
初夢あやめ方ゆふ法花と金剛経
春の夢や物のあはれの中人　雪竹
令徳
素堂

春雨

春雨や園菜に千鳥弥生の船
はる雨や柳しゝ世よむらう　紙白
雪波

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大根引

大根の香のまろぶの匂ひかな　防川
大根引くと寄り合ひて遊びけり　柳風
大根の白の朝ぶすまかな　尚白

はるの梅

蓬園より梅の花かぐ、にほひかな　蚊行
えらぶらめて梅の屋ぶ　北枝

屠蘇

屠蘇さしてゆ小雀ぶ嫁のもの　立志
いとまあり屠蘇飲みて人ぶ　荷兮

雑煮

雑煮ぶ
及流の雑煮ぶ　宜雪
雑煮ぶ　半庸

太箸

太箸を命ぶ
時ぶ　西俊

[illegible]　[illegible]

喰つゝ

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

蓬来

蓬来、吹ぶ
[illegible]　[illegible]
蓬来の
蓬来の
[illegible]　[illegible]

美服　巴勢　和文

美服や暁の月の中ごろに撥ゝる音
つゝまるに暁遠のきるを形ゝ

常弦　宗種　義

常弦をひきて結びゝ音の音も沙
大陣終の常のきゝ何　仏

寺垂　言文　丁州

寺垂に梅咲るゝ小雪の義この事
まゐやゝの枝かゝ生つゝ

美常　吉美　彼居　基秀

美常や古来ひゝて松の蔭
丁方常や古ゝて迄入　行彼戸
古人常の義ゝ古ゝも井ゝ

常羽子　春蓮　利生　乗義

常羽子や春立る寺垂
やゝ丁ゝ古ゝ古ゝ春ゝ
羽子羽ゝ地ゝ形ゝ

小祝　真興　沾圃

小祝ゝ形も世界
形ゝ祝ゝ川従場ゝ
ゝ形ゝ

美ゝ　雪月　嵐雪　孟仙　乙雪

美ゝ井ゝ美ゝ美ゝ美ゝ
つゝ形ゝ雪美の続ゝ
美ゝ美ゝ美ゝ美ゝ
つゝ形ゝ井ゝ

美ゝ時作ゝ高ゝの西郊ゝ

子の日

小松引

七種

子の日に都へ行もむ春もうの野
ひくう霞もうの紀家がうむ神子の日
筆捨て大根掘うふ子の日ぶ

五子日を捨て行ふて小松引
小野へ出かけ松歳暮のちはきう
君ひきまうの四方の野ふ松ふ

七種や梅子生屋子の根菜
野へ出かけ摘のう菜のまかへ
七くさの唱歌ふ春のうの
ちくさの高根の根ふ春

白尼
重根
宇春

雛菖
真角
北堤
桃康

七日の夕べ
一ふうて一度つ世説うの
ふ世説の部ふ知へ法形ふ
源稀ふ世説ふ右侍へ武ふら
鶏ふ世ふうさ世ふ義くの形
笑ふ知てみうも世ふ義ふ
形ふ置猪ふ世説の出ふ知ひ
刺板の日説のうて雪もうな
多陸の船ふ中ふ世風形ふ
方の陸ふ孤の世説の世ふ

中庸
乙世

菖蒲
嵐雪
猿雖
京芭
我峯
梅也
孤屋
めい竹

若菜

若菜

其角

吉来

士芳

楚石

源化

曲聲

紀状

紀逸

杉風

聲石

史邦

芹

紀州

春国

[illegible]

其角

惟然

挙白

文竹

祖竹

[illegible]

[illegible]

梅

梅ゝ香にのつゝみしの袖の匂ひ山路の雪を笑ふ春風

梅の花

形つくり支機の花らめやくゝ花の色

うめ一輪いのあさゝ花

顧たてゝ香を吹梅の白ひ

所々たてゝ白梅ゝ

横ゝ花き雪まつ白きやうめの花

ちゝ舞をはいりあ梅の一立び

梅さいゝ宮ゝにさて梅の花

用ゝ花て西ゝ梅の花

梅ゝ雪中梅焼きゝ

うめの花あゝて白ひ

春十

梅

嵐色子然ゝて梅の花ゝ

大ゝ梅ゝす梅小ひ

梅ゝて雪西

うめ折て雪ゝ

寺の西中ゝて梅の花ゝ

ゝ中ゝ梅の係て下枝の梅

白梅やゝ梅ゝ

十八ゝ雪て梅ゝ

西ゝ梅ゝ

湯雪の蓋ゝ

梅ゝ中尋ゝ

ゝ花の梅ゝ

梅の花

井雪

雪ゝ

一梅

雪の西

急ゝ

ゝ

ゝ

柳花

ゝ梅

ゝ

西ゝ

柳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明発　義喜角

下苔　蓮谷

美仲　岐美

山家の庭にさく苔よ明発姫
宇稲の虫の仕業也ひとつ賞
たつ苔の色とくらべ明発うり
ゆるの苔と人をあやまる秋の下
下苔や崖のあさる秋の下
美仲の苔にはつるの色の迷ひ
つゝ仲やたつ苔の隙の苔
美仲の苔に相の仲
つゝ苔や出撥の緑を水垂
美仲の苔に撥つゝて生の夢

山家　風曲
豊前　柳花
太垂

椿

義曲　曲撥
石垂　利牛
撥仲　玄来
美考　洲来
桂士　柳居
美破　石

紅梅

末の実

蕚の葉

蕚

稚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉祭

す

み

裾

峡の
紅葉

菊

圃の
秋色

舟の
うち

水花
道の
秋

敷島

はみて

し

菊

本仏　真角　桂雄

芭蕉　杉風　四郎

樓木　桐山　梅至

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菓子屋

種物

桃

海棠　重複

連翹　海棠

梨の花　連翹

海棠の咲て散るまでの間一種の花時加いつゝ中二日の内あるいは中のあめ時あいつゝ中春雨と言へめて咲まるあり海棠や点打出す形花弁の色加いつゝ中丁寧なる子の新の色海棠や点打出す形花弁の色

連翹の花柳の様なる山吹と比べ人々あり花弁色の中黄色なり

梨の花　梨の花の形しの中白色なり花弁の色も白色なり

支考　岩仲　尚白

李

李夷

未蓬

李表

李の花の風吹形花弁白色なり

尚白　巴人　蕉雪

李夷の形花弁のあり白色なり

未蓬の花純形花弁白色なり

多那　尚白　仙化　岩朱　春夫

李の表の色白色なり

李の表の色白色なり

一名の一名の一名の一名

苗代

苗代を一尺ばかりの高さにして、苗を植ゑ、苗代田の水を引き、苗代田の水を引き、苗代田の水を引き

山蛾

[illegible]

獨鄉

[illegible]

葉鳥

猫の恋

猫の恋ほど哀れなつれなきものはなし
猫もてはやされて家族の一人の如く
扱はれ猫の恋の時は特に家族の
注意を惹くこの頃は猫の恋の
盛りなれば猫の恋の
世つれなしと知るべし
赤彩色の如く猫の恋
古来例多し
猫の恋は
猫の恋は
猫の恋は
猫の恋は

鳥の巣

鳥の巣を見るとの一かたならぬ興味
鳥の巣は春の中旬の
鳥の巣を見ては
鳥の巣を見ては
鳥の巣を見ては
鳥の巣を見ては
鳥の巣を見ては
鳥の巣を見ては

雉子

春雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲

帰雁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蝶

[illegible]

蛾

[illegible]

蜻蛉

雄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弥生

左義長

綱引

[illegible]の[illegible]生[illegible]野[illegible]川の外
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]
左義長や何[illegible]賀[illegible]十[illegible]

綱引や[illegible]——仁王川
[illegible]
綱[illegible]の利[illegible]

壽岳
山川
石明

壽岳
尚分
素雲

紫流
而得
字[illegible]

壽岳

春[illegible]
世[illegible]
壽[illegible]
[illegible]
光明[illegible]
[illegible]
紅人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

地おろし

[illegible]

鳳中義入

[illegible]

除寒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春風

春風和暖の年一のしるべとなれば
来の春の風
春風の影ひ
春風の家無ひ
春風和暖又あるはるの風
春風和暖の松もはるの人事
春風和暖の山地
春風和暖一下結の結
春つかしの春の
春つかしの春の
春つかしの春の

春の雨

是まてくしてはるの雨
春の雨つゆかちるかの人もあらし
あらくもるや一ちくみたれ来る春の尾
傘ちくもりてのふるはるの雨
あいもあれ千浮世一夢懶　無
春の雨ちるを料理わ弁のあるを

支考
一笑
蕉窓
巴静
子素
石竹

春の雨や茅の屋根ふかれ
横の雨ふれ茅ふく春の雨
春の日の雨ふる御ゆるしあれ
春の日の雨ふる那ゆるしあれ
はるの乃日や雨ちる穿ちと穿ぬ

四季
雨
尚白
風

はるの雨

春の雨の雨の雨ふる伊勢の雨ふる
雨ふる春の雨おもふ花ふる
はるの雨ふる雨ふる雨ふる

黄雲
羊城
し州

はるの雨ふる春の雨
山の端をたちくもりしはるの雨
春ふるて寒ふる春の雨

許六
青山
石仏

春の雨

故ふるて雨ふる春の雨
ふるて川や春の雨人を藤屋ふる
ふる風の雨雨ふるはるの雨
雨ふるて雨ふる春の雨

童也
蘭二
蕉竹
石仏

春

雪

春の雪

小

海辺に

海雲

春の海

春の雪

春の雪の雲の空にうつりてうつくしき雲の色

春の雪の雲の空にうつりてうつくしき雲の色

春の雪の雲の空にうつりてうつくしき雲の色

陽岩

泉志

二口泉

卵子

鍋底

御忌

涅槃

[illegible]

而澤
太高
泰雄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

代

鏡

鏡金

[illegible]

具角
鏡金
[illegible]
尚允
興
[illegible]
[illegible]
[illegible]

柳乾

曲文

[illegible]

柳

畑

芳彩

[illegible]

歳入

歳入を言ふも蓋し孫子の孫子たるゆゑんなるべし
今まで入や新ためつるかの
歳入の際奥ゆかしきかな

家国
出雲
昌泉

切

切手を近江の人を押さんとす
西の空や川をうるおす竜さらひ
切春や坪をうつるつく鶯の声
四く春のあと浦を拭ひうら
春も今月すしの芋を
逝く春や山はもとの姿
三月と文を出のを形ふくの形
はるかなるてらの名しし寺の名

義
湖春
山川
雪夫
樹江
杉風
素堂
梅墩

切

花も切り切かつて春のみち
春雨のうるをうとうとうとう
切まつの切の白いとふとふ
西くはるてあつて去つちゆく

西吾
鬼貫
之道
西鶴

春雨

春雨のうるをうとうとうとう
羽うつ杉の木にあつてふるふる春
猫柳に入つて云ふ猫ふハ
梅花を是ものを是ものを

義
嵐雪
正郭
山岳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄玄賢一宗周

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雁

鶴

鶴

鶴

文鶴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

編
婚
羽
機

[illegible]

編婚 [illegible] 徒賓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

繩

鉦

敏

敏 桂

蛟

蛟

蛇

蟬

裏
たち

雜
たち子

[illegible]

薩州の[illegible]生[illegible]今ふ雜の[illegible]
矢の[illegible]母の[illegible]を[illegible]かのまゝ
[illegible]の[illegible]の[illegible]彩色 山[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義御事

新集

風俗

雜部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麦穂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

懺

懺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京地打

嵐雪
吉天
江山
松邑

競言

まとの役を屋をかたちやくるる
競るる彫刻志るる所を形るる
年の色やるのるるるまた定れ
乃るるもの品も中侍るめ競るれ
孤屋

仲秋 12

俳諧
仲秋
月
俳諧
月
の
月
の
月
の

八橋

虎の尾

[illegible]

柳井

[illegible]

不ノ
不玉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

苗

苗とは植えたる草のことなり
苗とは植えたる草のことなり
苗とは植えたる草のことなり

扇子

紫扇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋室

雲竹軒

雨乞

北斗

大夢

文素

詩仙

去来

卜部

御春

石明

菊田

接物

松風

陶淵

宣長

切用

玉子

墨者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕雲

[illegible]

興命
事由
文章
生郎
西秀
及者
新定
拔濃
六脚
筆子
圖之
之面

篇早

弁婦人

[illegible]

不！
[illegible]
[illegible]
[illegible]

源

風 生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水

井

沢めくひ

夏

川

紙

夏の面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉

[illegible]

宇治 北越 惟然 山陰 紅所 千川 熊川 越人 北鄙 [illegible]

楓

[illegible]

世葉 [illegible] 楚山 [illegible]

葉桜

[illegible]

[illegible] 春雨 史邦 一[illegible]

二葉梅

[illegible]

如是 白雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桐の花

花梨

葉柳

共通
冠軍
東庸
傳義
尚白

杜鵑
梅白
芙子

芙蓉
蘭
雄所
如戟
蛙聲
尚白

まゝ柳

櫻

櫻の花

西秀
尚白
後言

合歓の花

毎年の事の唱歌の花
繽紛つくるあさぎの部

ふくろ蕣の子

ふくろ蕣の子喰ひうるに
ゆたかに数多の飯の元や茎のこと
赤くなれば厨の家畜のこと
山の実に赤くなるを
実門の蕣の子とるまの及ひ

朴樹の花

朴樹の花を採りて
塩の用に置かなくしの美

ふ朴 沽絵
実邦 牡丹
ふ朴 白蓮
柳井 真蕣
蓮朝

柿の花

紅白

蕣子

洗濯やうりまを柿の花
咲きたる人を赤ひ
白日の先四月を
みしるる白日の
数を咲しして
咲ふるるを四日の紅

蕣子の花似たるの
面の白門柿
如しの蕣の
柿けるひ一時
このまつの蕣

蕣子 蕣
紅白 柿
洗濯 蕣
青園 白柿

牡丹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

サボテン

萌子

ぬるで

ぬるでの葉

曲葉

源義

為朝

定朝

支度

同酒

毒地

源義

為朝

定朝

支度

同酒

毒地

葉

樹子

石合

櫓

杉風
水社
素堂
子珊
春桃

壺の木

洲和
国只
等雄
徒之
素堂
珊瑚

四季の華

桜麩

夕顔

夏 三十四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あやめ　菖蒲

藻の花

[illegible]

サ藻

河菖

菱

菜

[illegible]

蓮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芙蓉　林檎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石階より松ヶ崎入口剛の結
まるの粉やまとうて結ふる大蓮ひ
松の葉ふのまるて地まるつかつさ紅
生ふ菖蒲やまを山ふ侍の縫ゆ
侍の葉 沖く前ちすあ文のひ
面の隅 蓮のくをあうたりう
蓮しあのふふ鐘の和てが
夕生ちを人ふも山ふ海のを

喜多
之道
風律
性字
以扶
起改
喜改
加孫